

12 研修・実習実績

(1) 研修実績

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

期 日	研 修 対 象 者		研修人員	備 考
	所 属	科・学 年 等		
21. 4. 7	警視庁刑事部刑事総務課	巡查部長刑事任用科	44	
4. 9	警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策総務課	巡查部長組織犯罪対策任用科	31	
4. 15	特別区保健所研修医	研修医師	2	
4. 16	警察大学校	初任幹部科・通信初任幹部科・科学警察研究所研究員	22	
4. 21	関東管区警察学校	警部補任用科	66	
4. 22	関東管区警察学校	警部補任用科	66	
4. 23	女子栄養大学	保健栄養学科臨床検査技師課程4年	54	
4. 24	陸上自衛隊小平学校	警務教育部初級陸曹特技課程	37	
4. 27	新宿区医師会立看護高等専修学校	准看護師学科2年	35	
4. 28	警視庁警察学校	巡查交通捜査任用科	48	
5. 1	特別区保健所研修医	研修医師	27	
6. 11	特別区保健所研修医	研修医師	24	
6. 22	警視庁警察学校	初任科	44	
6. 25	警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策総務課	巡查組織犯罪対策任用科	60	
6. 30	警視庁刑事部刑事総務課	巡查刑事任用科	59	
7. 1	関東管区警察学校	警部補任用科	68	
7. 2	関東管区警察学校	警部補任用科	69	
7. 7	警視庁刑事部刑事総務課	警部補刑事任用科・警部補組織犯罪対策任用科	16	
7. 9	特別区保健所研修医	研修医師	18	
7. 10	陸上自衛隊小平学校	警務教育部幹部特技課程	12	
7. 15	消防大学校	火災調査科	54	
7. 16	日本医科大学	医学部医学科3年	14	
7. 22	朝霞准看護専門学校	1年	41	
8. 3	日本獣医生命科学大学	大学院応用生命科学専攻博士前期課程	13	
8. 11	埼玉県立大学	健康開発学科検査技術科学専攻3年	43	
8. 19	警視庁刑事部刑事総務課	巡查刑事任用科	60	
8. 20	特別区保健所研修医	研修医師	4	
8. 28	東邦大学医学部	医学部医学科4年	19	
9. 1	帝京短期大学	ライフケア学科2年	4	
9. 2	関東管区警察学校	警部補任用科	71	
9. 3	関東管区警察学校	警部補任用科	71	
9. 4	特別区保健所研修医	研修医師	17	
9. 7	警視庁警察学校	初任科	44	
9. 9	警視庁警察学校	初任科	47	
9. 10	日本大学医学部	医学部医学科4年	57	
9. 14	所沢准看護学院	准看護師課程2年	46	
9. 15	日本大学医学部	医学部医学科4年	55	
10. 15	赤十字血液センター	日赤職員	5	
10. 26	飯能看護専門学校	高等看護科1年	51	
10. 28	警視庁警察学校	初任科	48	
10. 29	特別区保健所研修医	研修医師	15	
10. 30	下谷医師会立看護高等専修学校	准看護師学科2年	46	
11. 2	東京消防庁消防学校	救急救命士養成課程研修生	55	
11. 4	宇都宮准看護高等専修学校	准看護課程1年生	39	
11. 5	警視庁警察学校	初任科	60	
11. 6	警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策総務課	巡查組織犯罪対策任用科	36	
11. 9	警察庁科学警察研究所 法科学研修所	鑑定技術職員養成科	60	
11. 10	警視庁刑事部刑事総務課	巡查刑事任用科	56	
11. 11	厚生労働省労働基準局労災保障課	労災保険審理室等職員	12	
11. 18	関東管区警察学校	警部補任用科	71	
11. 19	関東管区警察学校	警部補任用科	70	
11. 20	東京医学技術専門学校	臨床検査技師学科1年	53	
11. 25	陸上自衛隊小平学校	警務教育部上層陸曹特技課程	27	

期 日	研 修 対 象 者		研修人員	備 考
	所 属	科・学 年 等		
21. 11. 26	特別区保健所研修医	研修医師	12	
11. 27	蕨戸田医師会看護専門学校	看護学科第3学年	37	
11. 30	東京女子医科大学	医学部医学科第4学年	51	
12. 1	杏林大学	医学部4年	43	
12. 2	総務省消防庁消防大学校	火災調査科	49	
12. 3	杏林大学	医学部4年	43	
12. 4	社会保険船橋保健看護専門学校	第2学年	34	
12. 7	東京女子医科大学	医学部医学科第4学年	50	
12. 8	東京慈恵会医科大学	医学部医学科第3学年	25	
12. 9	東京慈恵会医科大学	医学部医学科第3学年	25	
12. 10	東京慈恵会医科大学	医学部医学科第3学年	25	
12. 11	東京慈恵会医科大学	医学部医学科第3学年	25	
12. 14	北区医師会看護高等専修学校	准看護師課程1年	40	
12. 15	聖マリアンナ医科大学	医学部4年	53	
12. 16	警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策総務課	巡查部長任用科	26	
12. 17	府中看護高等専修学校	准看護師学科2年	47	
12. 18	世田谷看護学校	准看護学生2年	34	
12. 21	特別区保健所研修医	研修医師	16	
12. 22	多磨全生園看護学校	看護学科第1学年	20	
12. 24	警視庁刑事部刑事総務課	巡查部長刑事任用科	42	
22. 1. 5	聖マリアンナ医科大学	医学部4年	53	
1. 7	東京医科歯科大学	医学部3年	90	
1. 8	蕨戸田医師会看護専門学校	1, 2年	50	
1. 14	特別区保健所研修医	研修医師	15	
1. 21	愛知県医師会	医師	3	
1. 24	愛知県医師会	医師	10	
1. 27	関東管区警察学校	刑事課程	64	
1. 28	関東管区警察学校	刑事課程	64	
1. 29	警視庁刑事部刑事総務課	巡查刑事任用科修了者	61	
2. 2	警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策総務課	巡查組織犯罪対策任用科	41	
2. 3	警視庁警察学校	巡查交通捜査任用科	36	
2. 4	陸上自衛隊小平学校	警務教育部初級陸曹特技課程	47	
2. 5	日本獣医生命科学大学	獣医学部獣医学科	7	
2. 8	警視庁警察学校	初任科	41	
2. 17	名古屋海上保安庁	第4管区海上保安本部海上保安官	2	
2. 18	特別区保健所研修医	研修医師	9	
2. 23	警視庁刑事部刑事総務課	巡查刑事任用科	60	
2. 26	国立看護大学校	看護学部看護学科1年	32	
3. 1	東京医療センター附属東ヶ丘看護助産学校	看護学科1年	41	
3. 2	警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策総務課	巡查組織犯罪対策任用科	36	
3. 3	西武学園医学技術専門学校	臨床検査技師科2年	38	
3. 4	東京医療センター附属東ヶ丘看護助産学校	看護学科1年	44	
3. 5	国立看護大学校	看護学部看護学科1年	23	
3. 9	渋谷区医師会附属看護高等専修学校	1年	40	
3. 10	日大歯科病院	指導歯科医・研修歯科医	75	
3. 11	特別区保健所研修医	研修医師	3	
3. 12	済生会看護専門学校	1年	27	
3. 15	昭和医療技術専門学校	臨床検査技師科1年	30	
3. 16	所沢看護専門学校	1年	48	
3. 17	警視庁警察学校	初任科	45	
3. 19	警視庁警察学校	初任科	39	
3. 23	上板橋看護専門学校	看護学科1年	23	
3. 24	昭和医療技術専門学校	臨床検査技師科1年	30	

※養成施設等別研修者内訳

施設等	21年度研修者数	回数
医学部関係	628 (8団体)	15
看護師養成施設	798 (20団体)	21
臨床検査技師養成施設	252 (6団体)	7
警察・消防・その他	2,412 (12団体)	63
計	4,090 (46団体)	106

(2) 監察医等実習実績

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

期 間	延日数	所属 (大学・医療機関等)	人 数
21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	6	東京医科歯科大学	1
21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	5	九州大学大学院医学研究院	1
21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	10	東京大学大学院医学系研究科法医学教室	1
21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	2	筑波メディカルセンター病院	1
21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	17	東京女子医科大学法医学講座	1
21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	1	九州大学大学院医学系学府博士課程社会環境医学講座法医学分野	1
21. 4. 1 ～ 22. 3. 31	9	杏林大学大学院医学研究科法科学専攻	1
21. 4. 2 ～ 21. 4. 3	2	大分大学医学部医学科5年	1
21. 4. 14	1	東京女子医科大学医学部6年	1
21. 4. 21 ～ 21. 5. 30	1	筑波大学医学専門学科群医学部5年	1
21. 5. 1 ～ 22. 3. 31	8	東邦大学医学部医学科6年	1
21. 5. 1 ～ 22. 3. 31	10	防衛医科大学校4年	7
21. 5. 1 ～ 21. 8. 31	6	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	3
21. 5. 1 ～ 21. 12. 31	2	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	1
21. 5. 1 ～ 21. 5. 31	2	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	1
21. 5. 4 ～ 22. 3. 31	7	東京慈恵会医科大学医学部5年	1
21. 5. 23 ～ 21. 8. 31	2	順天堂大学医学部医学科6年	1
21. 6. 1 ～ 22. 3. 31	46	東京慈恵会医科大学法医学講座	1
21. 6. 15 ～ 21. 6. 26	10	福井大学医学部5年	1
21. 6. 18 ～ 21. 6. 19	2	神戸大学医学部医学科5年	1
21. 6. 10	1	(財) 東京都保健医療公社東部地域病院	1
21. 6. 24	1	(財) 東京都保健医療公社東部地域病院	1
21. 7. 1 ～ 22. 3. 31	1	都立墨東病院救急救命センター	1
21. 7. 1 ～ 22. 3. 31	9	埼玉医科大学国際医療センター病理学教室	1
21. 7. 1 ～ 21. 7. 31	10	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	5
21. 7. 16	3	自治医科大学(都立病院所属)	3
21. 8. 1 ～ 22. 3. 31	1	日本医科大学医学部医学科3年	1
21. 8. 1 ～ 21. 8. 31	2	東京医科大学医学部医学科3年	1
21. 8. 11 ～ 21. 8. 12	2	東北大学大学院医学系研究科社会医学講座	1
21. 8. 17 ～ 21. 8. 18	2	岡山大学医学部医学科5年	1
21. 9. 1 ～ 22. 3. 31	1	旭川医科大学法医学講座	1
21. 9. 20 ～ 22. 3. 31	27	東北大学大学院医学系研究科社会医学講座	1
21. 9. 1 ～ 21. 12. 31	4	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	2
21. 9. 11 ～ 21. 9. 14	3	愛媛大学大学院医学専攻	1
21. 9. 12 ～ 21. 9. 13	4	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	2
21. 10. 1 ～ 21. 10. 31	4	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	2
21. 10. 1 ～ 22. 3. 31	2	東邦大学医学部医学科4年	1
21. 10. 26 ～ 21. 11. 30	6	順天堂大学医学部医学科3年	2
21. 11. 1 ～ 22. 3. 31	2	東邦大学医学部医学科4年	1
21. 11. 1 ～ 22. 3. 31	5	東海大学医学部附属病院	1
21. 11. 1 ～ 21. 11. 30	4	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	2
21. 11. 16 ～ 21. 11. 30	2	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年	2
21. 11. 22 ～ 22. 3. 31	2	東邦大学医学部医学科4年	1
21. 12. 1	2	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	2
21. 12. 2	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 5	1	山形大学医学部医学科5年	1
21. 12. 8	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 11	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 13	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 15	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 16	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 18	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 20	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
21. 12. 21 ～ 22. 1. 7	6	日本医科大学医学部医学科4年	2
21. 12. 11 ～ 22. 2. 28	4	東京医科大学医学部医学科4年	3
21. 12. 20 ～ 22. 3. 31	1	埼玉医科大学医学部4年	1
21. 12. 22 ～ 21. 12. 26	2	パーモンント大学医学部	1
21. 12. 22	2	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	2
21. 12. 24	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
22. 1. 4	2	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	2
22. 1. 5 ～ 22. 1. 6	2	群馬大学医学部5年	1
22. 1. 7	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1
22. 1. 9	1	国立保健医療科学院 (死体検案研修)	1

期 間	延日数	所属（大学・医療機関等）	人 数
22. 1. 10	3	国立保健医療科学院（死体検案研修）	3
22. 1. 13 ~ 22. 3. 31	1	狛江医師会（多摩検案事業研修）	1
22. 1. 13	3	国立保健医療科学院（死体検案研修）	3
22. 1. 14	3	国立保健医療科学院（死体検案研修）	3
22. 1. 18	1	国立保健医療科学院（死体検案研修）	1
22. 1. 22	2	国立保健医療科学院（死体検案研修）	2
22. 1. 26 ~ 22. 2. 2	2	国立保健医療科学院（死体検案研修）	1
22. 1. 27	1	多摩がん検診センター 検査科	1
22. 1. 31	1	国立保健医療科学院（死体検案研修）	1
22. 2. 1 ~ 22. 3. 31	4	八王子市医師会（多摩検案事業研修）	1
22. 2. 1 ~ 22. 3. 31	2	東邦大学医学部医学科4年	1
22. 2. 1 ~ 22. 3. 31	4	東京大学医学部医学科5年	3
22. 2. 4	1	国立保健医療科学院（死体検案研修）	1
22. 2. 17	2	国立保健医療科学院（死体検案研修）	2
22. 2. 21	1	国立保健医療科学院（死体検案研修）	1
22. 2. 24	1	国立保健医療科学院（死体検案研修）	1
22. 2. 25	1	国立保健医療科学院（死体検案研修）	1
22. 2. 10 ~ 22. 3. 31	6	東京慈恵会医科大学医学部医学科4年	3
22. 2. 28	2	国立保健医療科学院（死体検案研修）	2
22. 3. 1 ~ 22. 3. 31	4	東京慈恵会医科大学医学部医学科4年	2
22. 3. 1 ~ 22. 3. 31	3	東京大学医学部医学科5年	3
22. 3. 23 ~ 22. 3. 24	2	岡山大学医学部医学科4年	1
合 計	330		127

(3) 検視官研修

警察大学校法医専門研究学生（警察庁及び各都道府県警察において検視業務に従事する技官・警視・警部）の法医学（検案・解剖）の実務研修受け入れ

（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

期 間	延日数	所属（大学・医療機関等）	人 数
5. 7 ~ 5. 25	13	警察大学校（検視官研修） 春期 A	20名
5. 26 ~ 6. 10	13	警察大学校（検視官研修） 春期 B	20名
9. 15 ~ 10. 6	13	警察大学校（検視官研修） 秋期 A	20名
10. 7 ~ 10. 23	13	警察大学校（検視官研修） 秋期 B	20名
合 計			実人員 80名

(4) 検視実務専科研修

（平成21年4月1日～平成22年3月31日）

期 間	延日数	所属（大学・医療機関等）	人 数
7. 23 ~ 7. 28	4	関東管区警察学校（検視実務専科研修） 夏期	40名
11. 12 ~ 11. 17	4	関東管区警察学校（検視実務専科研修） 冬期	40名
合 計			実人員 80名

13 平成 21 年度研究業績

(1) 論文・著書

発表者	題名	誌名・巻・頁・年
Ro A, Kageyama N, Takatsu A, Fukunaga T.	Segmental arterial mediolysis of varying phases affecting both the intraabdominal and intracranial vertebral arteries: an autopsy case report.	Cardiovasclar Pathol. 2010Jul-Aug;19(4):248-51
Kimura Y, Nishimura FT, Abe S, Fukunaga T, Tanii H, Saijoh K.	Polymorphisms in the promoter region of the human class II alcohol dehydrogenase (ADH4) gene affect both transcriptional activity and ethanol metabolism in Japanese subjects.	J Toxicol Sci. 2009 Feb; 34(1): 89-97.
Ro A, Kageyama N, Takatsu A, Fukunaga T.	Differential diagnosis between traumatic and nontraumatic rupture of the intracranial vertebral artery in medicolegal autopsy.	Legal Med. 2009 Apr; 11(Suppl 1): S66-70.
Shigeta A, Hayashi K, Kikuchi Y, Kuroyanagi K, Kageyama N, Ro A, Takatsu A, Fukunaga T.	Fatal vascular injury as a result of operations: experience of two surgery-related autopsies.	Legal Med. 2009 Apr; 11(Suppl 1): S546-8.
Saito K, Takada A, Kuroda N, Hara M, Arai M, Ro A.	Traumatic dissection of extracranial vertebral artery with massive subtentorial cerebral infarction: Report of an autopsy case.	Legal Med. 2009 Apr; 11(Suppl 1): S520-2.
Ro A, Kageyama N, Abe N, Takatsu A, Fukunaga T.	Intracranial vertebral artery dissection resulting in fatal subarachnoid hemorrhage: clinical and histopathological investigations from a medicolegal perspective.	J Neurosurg. 2009 May; 110(5): 948-54.
Kimura Y, Nishimura FT, Abe S, Fukunaga T, Tanii H, Saijoh K.	A promoter polymorphism in the ALDH2 gene affects its basal and acetaldehyde/ ethanol-induced gene expression in human peripheral blood leukocytes and HepG2 cells.	Alcohol Alcohol. 2009 May-Jun;44(3):261-6.

発表者	題名	誌名・巻・頁・年
Nishimura FT, Kimura Y, Abe S, Fukunaga T, Saijoh K.	Effects of polymorphisms in untranslated regions of the class I alcohol dehydrogenase (ADH) genes on alcohol metabolism in Japanese subjects and transcriptional activity in HepG2 cells.	Jpn J Alcohol & Drug Dependence. 2009 Jun; 44(3): 139-55.
Inoue K, Fukunaga T, Okazaki Y, Masaki M, Nishimura Y, Nishida A, Hagiwara K, Ono Y.	Necessity of comprehensive suicide prevention measures among women in Japan --- A comparison between Japan and France in age-classified suicide rates.	West Indian Med J. 2009; in press
Hasegawa I, Uenishi K, Fukunaga T, Kimura R, Osawa M.	Stature estimation fomulae from radiographically determinend limb bone length in a modern Japanese population.	Legal Med. 2009 Nov; 11(6): 260-6.
Inoue K, Fujita Y, Okazaki Y, Masaki M, Ono Y, Fukunaga T,	A report of recent suicides in Japan.	West Indian Med J. 2009; Nov, 58(5):494.
呂 彩子, 福永龍繁, 柳田純一, 藤田眞幸.	身体拘束中または直後に肺血栓塞栓症によって死亡した精神科入院患者の経験.	犯罪学雑誌 2009 Feb; 75(1): 1-8.
呂 彩子, 景山則正, 谷藤隆信, 林 紀乃, 重田聡男, 福永龍繁.	腎癌の肺動脈への腫瘍塞栓による突然死の1例.	Therapeutic Research 2009 June; 30(5): 77.
井上 顕, 福永龍繁, 阿部俊太郎, 那谷雅之, 谷井久志, 小野雄一郎, 岡崎祐士.	精神医学・法医学・公衆衛生学等関連各分野の連携による自殺対策---三重県における調査結果と活動報告.	精神神経学雑誌 2009 Jul 25: 111(7); 733-40.
金涌佳雅, 谷藤隆信, 阿部伸幸, 森晋二郎, 重田聡男, 福永龍繁, 鈴木恵子.	東京都区部における単身・複数世帯別自殺死亡率.	厚生指標 2009 Aug 15; 56(8): 25-9.
金涌佳雅, 永井智紀, 林 紀乃, 畔柳三省, 水上 創, 菊地洋介, 森晋二郎, 重田聡男, 福永龍繁.	東京都区部の行政解剖例における診療に関連した項目についての統計的実態:診療関連死調査における医務院制度の役割.	日法医誌 2009 Nov; 63(2): 141-55.
重田聡男, 高津光洋, 池上雅博, 呂 彩子, 景山則正, 福永龍繁.	Angiodysplasia に起因した結腸穿孔の1剖検例.	法医学の実際と研究 2009 Nov; 52: 97-102.
呂 彩子, 景山則正, 菊地洋介, 佐々木宗男, 重田聡男, 高津光洋, 福永龍繁.	急性胆嚢炎に対する内視鏡的逆行性胆道ステント設置術後の十二指腸穿孔の一剖検例.	法医学の実際と研究 2009 Nov; 52: 103-8.

発表者	題名	誌名・巻・頁・年
水上 創, 原 修一, 工藤恵子, 森晋二郎, 栗岩ふみ, 荒川礼二郎, 池田典昭, 福永龍繁, 遠藤任彦.	モルヒネ中毒をきたした脊髄空洞症の一剖検例.	法医学の実際と研究 2009 Nov; 52: 109-14.
永井智紀, 林 紀乃, 岩本正男, 水上 創, 森晋二郎, 福永龍繁, 岩楯公晴.	重複腫瘍が疑われた退形成性膵管癌の一例.	法医学の実際と研究 2009 Nov; 52: 115-9.
阿部俊太郎, 酒井健太郎, 高津光洋, 岩楯公晴, 池松和哉, 中園一郎.	気管腕頭動脈瘤によって死亡した1剖検例.	法医学の実際と研究 2009 Nov; 52: 193-7.
山崎健太郎, 田宮菜奈子, 松澤明美, 伊藤智子, 宮石 智, 梅津和夫, 金涌佳雅, 福永龍繁.	独居生活者および死後長時間経過事例にみる高齢者孤立死の疫学的考察と山形県・東京都区部の地域差.	法医学の実際と研究 2009 Nov; 52: 227-35.
中園一郎, 福永龍繁, 箕輪幸人, 種谷良二.	死因究明制度の現状と今後の展望.	警察学論集 2009 Jan 10; 62(1): 1-35.
福永龍繁.	日本の死因究明制度の現状と将来展望.	警察学論集 2009 Jan 10; 62(1): 56-70.
呂 彩子, 景山則正.	最新血管疾患の生理と病理 静脈血栓の進展,	Vascular Labo. 2009 Dec; 6(6): 647-51.
呂 彩子, 景山則正, 福永龍繁.	剖検からみた深部静脈血栓症と急性肺血栓塞栓症との関係.	medicina 2009 May 10; 46(5): 715-7.
呂 彩子, 景山則正, 福永龍繁.	急性肺血栓塞栓症 1) 病態と予防.	呼吸. 2009; 28: 372-5.
呂 彩子, 景山則正.	D 肺塞栓症 6 致死性肺血栓塞栓症.	別冊日本臨牀. 領域別症候群シリーズ 呼吸器症候群 (第2版) II その他の呼吸器疾患を含めて. 2009; 324-9.
景山則正, 呂 彩子.	ひらめ筋静脈血栓症の特徴. (深部静脈血栓症---どう診て, どう治す---[識る] 7. [Experience])	Heart View 2009 Aug; 13(8): 883-8.
Inoue K, Tanii H, Fukunaga T, Maeda A, Ishiguri T, Hosokawa K, Hagiwara K, Mori T, Ono Y.	Review of reports on the relationship between suicide and climate.	J St Marianna Med Inst. 2009 Aug; 84(9): 7-13.
福永龍繁, 重田聡男.	災害による死亡と法医学. 災害医療---医療チーム・各組織の役割と連携.	大橋教良編集, 2009, へるす出版 (東京). pp.115-22.

発表者	題名	誌名・巻・頁・年
呂 彩子	肺血栓塞栓症の病因としての深部静脈血栓症 -ヒラメ筋静脈の重要性-。整形外科診療における肺血栓塞栓症。	富士武史，鳥島康充編，ライフサイエンス出版，pp. 2-6, 2009, 東京。
福永龍繁，水上 創。	監察医務院における薬物検出の実態に関する研究。	平成20年度厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業）「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究（H19-医薬一般-025）」総合研究報告書，pp. 10-1. 研究報告書，pp. 193-204, 2009, 東京。
福永龍繁，林 紀乃。	硫化水素自殺事例の分析。	平成20年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）「ネット世代の自殺関連行動と予防のあり方に関する研究」総括・分担研究報告書，pp. 7-20, 2009, 東京。

(2) 学会発表等

発表者	題名	学会名等（開催地）・開催年月日等
Hayasi K,	New suicide fad with hydrogen sulfide in Tokyo, Japan in 2008	National Association of Medical Examiners 2009 Annual Meeting presention friday 9/11-wednesday 9/16, 2009
Ro A, Kageyama N, Takatsu A.	Histopathology of ruptured intracranial vertebral artery dissection. (Symposium: Intracranial dissections)	6th International Intracranial Stent Meeting, Aug. 5-7, 2009, Sendai, Japan. Abstract: p. 76.
呂 彩子, 景山則正, 高津光洋, 近藤稔和, 福永龍繁.	椎骨動脈解離によるクモ膜下出血 22 剖検例の病理組織学的検討 -先行病変としての中膜変性の重要性-	第 34 回脳卒中学会総会, 2009. 3. 20-22, 2009, 島根. 要旨: 脳卒中 2009; 32: (CD).
景山則正, 呂 彩子, 高津光洋, 福永龍繁.	椎骨動脈と腹腔内動脈の解離合併例の経験 -椎骨動脈解離と SAM との関連を示唆する 2 剖検例-	第 34 回脳卒中学会総会, 2009. 3. 20-22, 2009, 島根. 要旨: 脳卒中 2009; 32: (CD).
井上 顕, 谷井久志, 福永龍繁, 前田阿紀, 石栗知美, 細川琴美, 萩原康介, 森 達哉, 西村幸香, 西田淳志, 小野雄一郎.	関連諸機関が連携した総合的な自殺対策の構築.	第 33 回日本自殺予防学会総会. 2009. 4. 17-18, 大阪.
景山則正, 小島原將直, 森晋二郎, 水上 創, 林 紀乃, 呂 彩子, 重田聡男, 福永龍繁.	階段からの転落外傷後に急性心筋梗塞を発症したと考えられた 1 例.	法医病理研究会第 17 回勉強会, 2009. 5. 13, 大阪. 要旨: 講演抄録集 p. 4-6. 法医病理 2009 Dec; 13:

発表者	題名	学会名等（開催地）・開催年月日
水上 創, 原 修一, 永井智紀, 森晋二郎, 栗岩ふみ, 荒川礼二郎, 福永龍繁, 遠藤任彦.	法医解剖における内因性心タンポナーデの統計学的検討.	第 93 次日本法医学会学術全国集会（講演）. 2009. 5. 15, 大阪. 要旨：日法医誌 2009 Apr; 63(1): 66.
永井智紀, 金涌佳雅, 大石純矢, 森晋二郎, 水上 創, 林紀乃, 畔柳三省, 菊地洋介, 重田聡男, 福永龍繁.	行政解剖例における診療関連死について.	第 93 次日本法医学会学術全国集会（講演）. 2009. 5. 15, 大阪. 要旨：日法医誌 2009 Apr; 63(1): 66.
山崎健太郎, 田宮菜奈子, 松澤明美, 伊藤智子, 宮石 智, 梅津和夫, 金涌佳雅, 福永龍繁.	山形県の高齢者孤立死の実態及び東京区部との比較.	第 93 次日本法医学会学術全国集会（展示）. 2009. 5. 14, 大阪. 要旨：日法医誌 2009 Apr; 63(1): 77.
金涌佳雅, 谷藤隆信, 阿部伸幸, 森晋二郎, 菊地洋介, 林紀乃, 重田聡男, 福永龍繁.	東京都 23 区内における単身世帯と複数世帯別にみた自殺死亡率.	第 93 次日本法医学会学術全国集会（展示）. 2009. 5. 14, 大阪. 要旨：日法医誌 2009 Apr; 63(1): 77.
井上 顕, 那谷雅之, 福永龍繁, 小野雄一郎.	日本と韓国における自殺の動向の検討から早急な予防に向けて.	第 93 次日本法医学会学術全国集会（展示）. 2009. 5. 14, 大阪. 要旨：日法医誌 2009 Apr; 63(1): 77.
呂 彩子, 景山則正, 近藤稔和, 福永龍繁, 木林和彦.	肝細胞内グリコーゲン貯蓄量による死亡状況の評価：マウスモデルによる基礎的研究.	第 93 次日本法医学会学術全国集会（展示）. 2009. 5. 15, 大阪. 要旨：日法医誌 2009 Apr; 63(1): 88.
福永龍繁.	病理医に必要な法医学的知識.	第 8 回“彩の国さいたま”病理診断セミナー. 2009. 5. 31, 埼玉県.

発表者	題名	学会名等（開催地）・開催年月日等
菊地洋介, 熊谷哲雄, 林 紀 乃, 重田聡男, 高津光洋, 福 永龍繁.	気管切開による人工呼吸器管理中 に全身皮下気腫を呈し急死した一 例.	法医病理研究会第 16 回夏期セミ ナー. 2009. 7. 31-8. 1, 箱根. 要 旨集 p. 21-4.
森晋二郎.	縊頸に見られる索溝と索条.	法医病理研究会第 16 回夏期セミ ナー. 2009. 8. 1, 箱根.
福永龍繁.	死因究明制度.	日本薬局協励会講演会. 2009. 10. 25, 東京.
呂 彩子, 景山則正, 重田聡 男, 高津光洋.	連続組織切片標本による破裂脳動 脈瘤の病理形態学的検討.	第 25 回脳血管内治療学会, 2009. 11. 19-21, 富山. 要旨: J Neuroendovascular Therapy. 2009; 3: 262.
呂 彩子, 景山則正, 谷藤隆 信, 重田聡男, 福永龍繁.	病理組織像からみた反復性肺血栓 塞栓症の進行過程.	第 16 回肺塞栓症研究会学術集会 (シンポジウム S-3). 2009. 11. 28, 東京.
福永龍繁.	監察医からみた自殺---監察医務 院の立場から.	平成 20 年度自殺総合対策特別講 演会. 2009. 1. 30, 文京区.
福永龍繁.	診療関連死と死因究明制度.	東京都立神経病院医療安全研修. 2009. 2. 24, 府中市.
福永龍繁, 金涌佳雅.	高齢者孤立死の検案から見えてく るもの.	平成 20 年度高齢者孤立防止推進 事業 (基調講演). 2009. 3. 16, 文 京区.
福永龍繁.	異状死について.	国立国際医療センター講演会. 2009. 3. 18, 新宿区.

発表者	題名	学会名等（開催地）・開催年月日等
菊地洋介, 黒須勝美, 阿部伸幸, 林 紀乃, 畔柳三省, 重田聡男, 福永龍繁.	東京都 23 区における熱中症死者の経年的動向.	第 78 回日本法医学会学術関東地方集会, 2009. 10. 31, 東京. 要旨集 p. 13.
金涌佳雅, 熊谷哲雄, 林 紀乃, 重田聡男, 金武 潤, 福永龍繁.	頭蓋内・外合併症を伴った乳様突起炎により死亡した男性剖検例.	第 78 回日本法医学会学術関東地方集会, 2009. 10. 31, 東京. 要旨集 p. 23.
森晋二郎, 景山則正, 呂 彩子, 水上 創, 重田聡男, 高津光洋, 福永龍繁.	Segmental arterial mediolysis による頭蓋内及び腹腔内動脈同時解離の 1 例.	第 78 回日本法医学会学術関東地方集会, 2009. 10. 31, 東京. 要旨集 p. 40.
水上 創, 原 修一, 森晋二郎, 黒岩ふみ, 荒川礼二郎, 福永龍繁, 遠藤任彦.	両側性副腎褐色細胞腫により脳出血をきたした一剖検例.	第 78 回日本法医学会学術関東地方集会, 2009. 10. 31, 東京. 要旨集 p. 41.
重田聡男, 景山則正, 呂 彩子, 高津光洋, 福永龍繁.	頭蓋内破裂囊状動脈瘤の病理組織学的特徴.	第 78 回日本法医学会学術関東地方集会, 2009. 10. 31, 東京. 要旨集 p. 42.
林 紀乃.	東京 23 区における外国籍者の異状死の実態～諸外国の死因究明制度との比較を交えて～.	第 17 回東京都監察医務院公開講座. 抄録集 pp. 6 , 2009. 9. 26, 東京. (http://fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansatsu/kouza.index.html)
濱松晶彦.	若年者の虚血性心疾患について	第 17 回東京都監察医務院公開講座. 抄録集 pp. 7-11, 2009. 9. 26, 東京. (http://fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansatsu/kouza.index.html)

発表者	題名	学会名等（開催地）・開催年月日等
小島原將直.	老人の自殺.	第18回東京都監察医務院公開講座. 抄録集 pp.7 - 21, 2010.3.20, 東京. (http://fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansatsu/kouza.index.html)
松井健一.	診療行為に附随して生じた、予期せぬ患者死亡について	第18回東京都監察医務院公開講座. 抄録集 pp.22 - 26, 2010.3.20, 東京. (http://fukushihoken.metro.tokyo.jp/kansatsu/kouza.index.html)